

当学会および臨床研究部会の 歩みと今後の展望

日本医療・環境オゾン学会臨床研究部会長

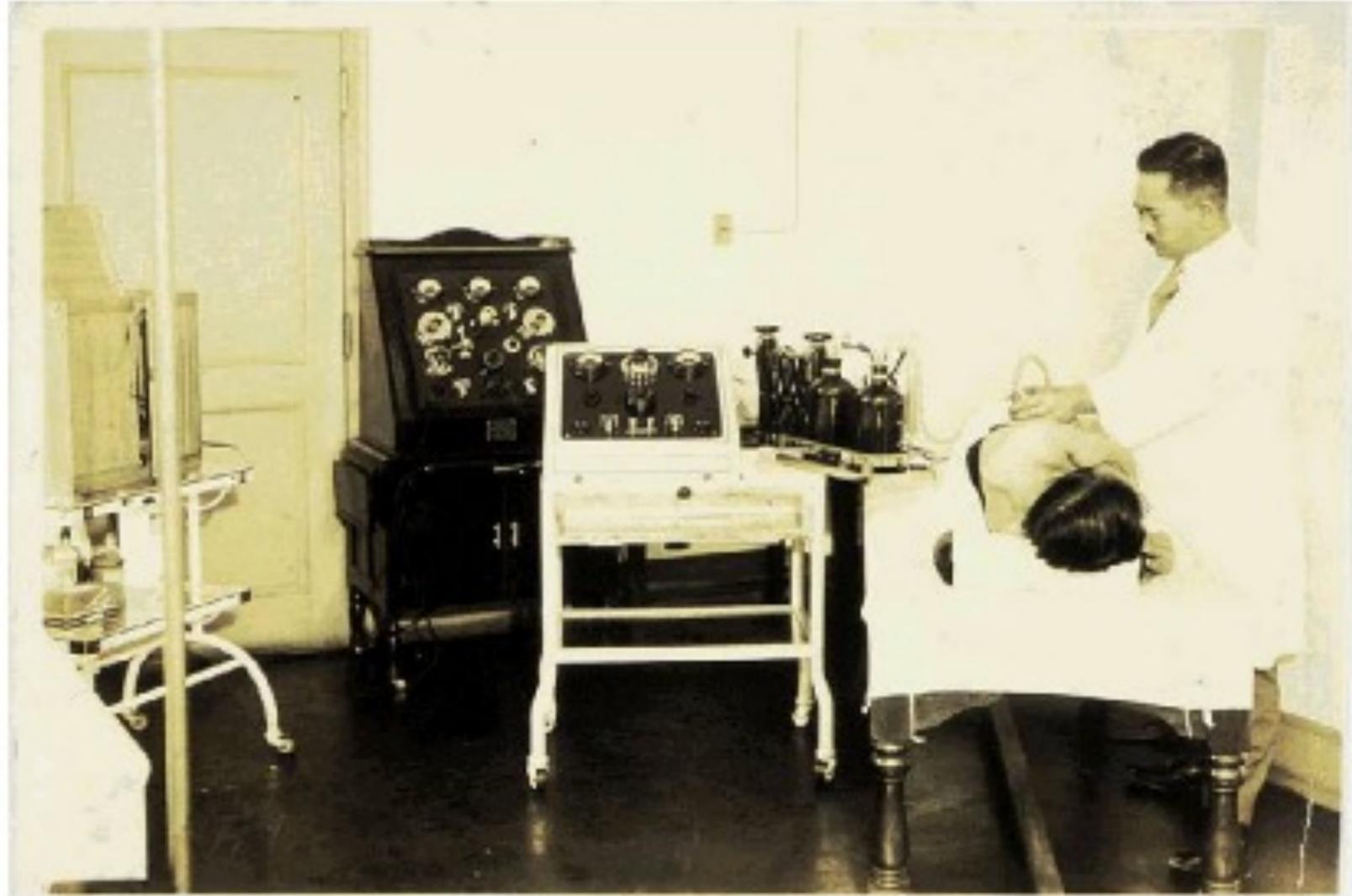
鎌倉元氣クリニック院長

松村浩道

臨床研究部会 とは

臨床研究部会とは、日本医療・環境オゾン学会の会員のうち、医師会員によって構成される部会で、当学会に入会した医師は自動的に臨床研究部会の所属となります。現在、当部会には95人の医師が所属しています（2021年3月）。

日本におけるオゾン療法のパイオニア



初期のオゾン発生器と尾川正彦氏（1924年）

我が国におけるオゾン療法の歴史は意外に古く、関東大震災があった1923年には尾川式オゾン発生器がつくられ、その後盛んにオゾンガスの皮下注射法が実施されたという記録が残っています。

世界で初めてオゾン療法を臨床応用したとされているのが1915年（A Wolff, ドイツ）ですから、当時の日本は世界的にみてもオゾン先進国だったと言えるでしょう。



しかしこうした事実は、1994年8月に当会の前身である「日本医療オゾン研究会」が設立されるまでは全くわかっていませんでした。

設立メンバーが偶然入手した文献集（尾形利二編集・神泉診療所提供）をもとに、約3年の歳月をかけてさらに文献を収集・解読し、存命者を訪ね直接話を聴くことを通して、ようやく今日知られている我が国におけるオゾン療法の歴史の全容がわかってきました。



実はオゾン療法は、戦前・戦中は軍部が採用し独占していたので、一般に知られることはほとんどありませんでした。



山岡萬之助 先生 (1876-1968)

それでも、オゾン療法の効果に感激した日本大学総長・山岡萬之助先生ほか多数の知識人の尽力により、神田駿河台日本大学付属病院にオゾン科が設けられ(昭和13年)、一般の人が治療を受けるようになりました。さらに一般に広がったのは終戦(昭和20年)後でしたが、オゾン療法に従事していた軍医が帰郷し開院した地域にほぼ限られていたようです。



我が国におけるオゾン療法は、基本的にはオゾンガスの皮下注射法でした。現在主流になっている大量自家血液オゾン療法（MAH）が行われるようになったのは、前述した「日本医療オゾン研究会」設立以降のことです。

当学会の前身である同研究会が、オゾン療法の普及に果たした役割がいかに大きかったかが、このことから窺い知れます。

次に、研究会設立から現在までの臨床研究部会の主な活動についてご紹介します。

臨床研究部会 の活動①

オゾン療法セミナー

オゾン療法の導入を検討している医師を主な対象として、オゾン療法の基礎から応用に至る座学と実技講習を丸一日かけて実施、参加した翌日からオゾン療法を実施できるようになることを目指します。2002年よりスタートし、現在までに45回開催しています。

臨床研究部会 の活動②

海外講師を招いてのセミナー

オゾン療法発祥の地・ドイツは、現在に至るまでオゾン療法の先進国と言えます。

これまで数回にわたり、本場ドイツからオゾン療法専門医を招聘してアドバンスセミナーを行ってきました。

臨床研究部会 の活動③

学術大会での発表

日本医療・環境オゾン学会学術大会では、毎回臨床研究部会から数題の演題を提供しているほか、日本統合医療学会学術大会でも毎年発表を行っています。後者においては、他部会との協力によりオゾン療法に関する一定数の演題を確保することで、ここ数年は「オゾン・セッション」が設けられるようになりました。

臨床研究部会 の活動④

国際学会への参加・発表

IOA Ozone World Congress（国際オゾン研究発表会）や、European Cooperation of Medical Ozone Societies（オゾン療法学会ヨーロッパ連合会）などの国際学会に参加・発表しています。

臨床研究部会 の活動⑤

海外医療制度視察ツアー

2010年にはキューバ医療制度視察ツアーを開催し、Ozone Research Center、キューバ・国際オゾン研究病院、薬学・毒物科学研究大学、ポリクリニコ、ファミリードクター、老人福祉施設などを訪問しました。キューバは国をあげてオゾン療法に取り組んでおり、特に直腸オゾン療法を臨床応用し大きな成果を上げています。

今後の 展望

現在、我が国にはオゾン療法に関連する団体が複数存在しそれぞれが特徴的な活動を展開していますが、そうした中において、当学会の特色は以下であると考えています。

1. 複数の部会から成り立つことで、他部会との相互情報共有によるシナジー効果が期待できること
2. 基礎研究や学会誌の定期刊行など、学究にも力を入れていること
3. 活動の歴史が古く、先人たちの残した成果や国内外の人脈が豊富であること

今後の 展望

こうした強みを活かしつつ、これまでの活動に加え、今後は以下のような活動を行っていきたいと考えています。

- ・ オゾン療法専門医/指導医制度の制定
- ・ オゾン療法に関する症例検討会や抄読会の実施
- ・ 他部会との連携をさらに深めシナジー効果を図ること
- ・ オゾン療法を切り口とした医科歯科連携を推進すること

ご覧頂き有難う ございました

非会員の先生がいらっしゃいましたら、
当学会へのご入会を心より歓迎致します。

引き続き臨床研究部会の活動へのご理解と
ご協力をお願い申し上げます。

